

報道関係者各位

十和田市現代美術館 館長交代のお知らせ キュレーター／批評家の四方幸子が新館長に就任

この度、十和田市現代美術館の館長 鷺田めるろは、2025年3月31日をもって館長職を退任することとなりましたのでお知らせいたします。新たな館長には、国内外で先進的な展覧会やプロジェクトなどを手掛けてきた、キュレーター／批評家の四方幸子が就任いたします。

鷺田めるろは2020年より館長に就任し、十和田市・青森県の文化芸術振興に寄与して参りました。2021年には開館以来初めてとなるコレクションの入れ替えや展示室の増築などを行なった他、2022年には環境問題の深刻化を鑑み、サステナビリティステートメントを発表するなど、常に次の時代を志向した美術館運営を目指してきました。その他にも、来館者へのコレクションの理解促進、当館の魅力を発信する活動のディレクションや、青森県を挙げてのアートプロジェクトへの参画など、多岐に渡る取り組みを通じ、十和田市現代美術館を牽引して参りました。

7代目の館長となる四方幸子は、2019年から現在に至るまで、十和田市現代美術館のアドバイザーボードメンバーとして、美術館を長年に渡り支えてきました。四方はこれまで、1990年代初頭から、黎明期にあったメディアアートのキュレーションに携わり、多くの先見的作品を展覧会やプロジェクトで発表しています。美術館やNTTインターコミュニケーション・センター [ICC] などの施設での活動の他、ビエンナーレや芸術祭でもキュレーターとして数多くの実績を重ねてきました。また、2022年より美術評論家連盟の会長に就任しており、その豊富な知見から、国内外でのコンペティションの審査委員やカンファレンスへ出席するなど、現代のアートシーンの変遷に参与しています。四方の研究は、現代美術、メディアアート、自然、精神、社会科学など、領域を横断して展開されており、当館コレクションのテーマである「人間と自然」をより一層深めていくことが期待されます。

新体制のもと、開館18年目を迎える十和田市現代美術館は、目まぐるしく変転し続ける国際社会の中、現代美術館としての使命を見つめ直し、未来への創造の橋渡しとなるような活動に尽力して参ります。

四方 幸子（しかた・ゆきこ） 略歴

京都府出身。キュレーター／批評家。美術評論家連盟会長、「対話と創造の森」アーティストティックディレクター。多摩美術大学・東京造形大学客員教授。1990年代より2010年までキャノン・アートラボ、森美術館、NTTインターコミュニケーション・センター [ICC] でキュレーターを務め、並行してフリーランスで先進的な展覧会やプロジェクトを数多く実現。デジタル／アナログを超える「情報フロー（流れ）」という世界観から現代美術、メディアアート、科学技術、文化人類学などをつなぐ横断的な活動を続ける。ライフテーマは「人間と非人間のためのエコゾフィーと平和」。著書に『エコゾフィック・アート—自然・精神・社会をつなぐアート論』（2023）。共著多数。yukikoshikata.com



撮影：新津保建秀

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

館長就任にあたり四方幸子より

十和田から愛をこめて

4月より十和田市現代美術館館長に就任する、四方幸子と申します。

私は十数年来、東北や北海道とご縁をいただき、多くの方々にお世話になりながら各地の自然や歴史、文化に触れ親しくしてきました。本美術館には、これまでアドバイザーとして関わり活動を見守ってきましたが、このたび鷺田めるろ館長の後任として重責を担うことになり、身の引き締まる思いです。

本館は、館内に加えて屋外常設作品を街なかに展開することで、2008年の開館以来、地域そして遠方からも多くの来場者を迎えてきました。リピーターの方も多く、人々に愛されている美術館です。

館長として私は、美術館のスタッフとともに、常設作品をしっかりケアし、企画展では国内外のアーティストをジャンル横断的な切り口で紹介していく所存です。また地域との関係を大切にし、参加型プログラムや街なかプロジェクトを展開し、十和田の文化を人々とともに育んでいきたいと思っています。

地球温暖化、社会格差、災害、戦争…世界は現在、さまざまな問題や危機に直面しています。そのような時代においてアートは、ますます必要不可欠なものとなっています。多様なアートに触れることで、一人ひとりが日々を創造的に生きること。創造的な志向は新たな創造を生み出し、人々と共有されることで創造の連鎖が生まれていくことでしょう。そこから世界は、変わり始めるのです。

創造の連鎖を起こす原動力として、私は「愛」を挙げたいと思います。アートへの愛、自分そして他者への愛、過去に生きた人々やこれから生まれてくる人々への愛、そして人間以外のさまざまな存在への愛。美術館、そして十和田や青森、日本、この世界への愛。私たちは、さまざまな存在とつながりながら生き、生かされています。そのありがたさを感じながら、十和田から愛をこめてアートを発信していきます。これからも、十和田市現代美術館をどうぞよろしく願いいたします。

退任にあたり鷺田めるろより

私は2020年4月に小池一子の後任として着任しました。5年間の任期中、新型コロナウイルス感染症が拡大し、臨時休館や入館者の減少などの困難もありました。しかし、この間に、開館後初めて常設展示を入れ替え、新たに塩田千春とレアンドロ・エルリッヒの大型作品を加えることができました。そして今では、海外を含め、パンデミック以前よりも多くの来館者を美術館にお迎えできるようにまじりました。

また、弘前れんが倉庫美術館の開館（2020年）、八戸市美術館のリニューアル開館（2021年）をきっかけに、青森県内の他の4つの美術施設との連携を進め、2024年には、合同でAOMORI GOKAN アートフェス2024を開催できました。新館長の四方幸子は、エコロジーとメディア・アートに強いキュレーターです。これまで十和田市現代美術館が常設作品や企画展で大切にしてきた「人間と自然」というテーマが深まるとともに、未来を問うメディア・アートの視点が新たに加わり、さらに魅力的な美術館となると確信しています。

今後とも十和田市現代美術館をどうぞよろしく願いいたします。

十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示しています。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができます。

所在地：青森県十和田市西二番町10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com



お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 media@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com